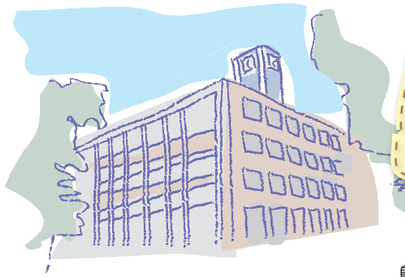

第22号

トリせつ

トリせつとは…？

―鳥大説明書―

鳥取大学に関する様々な情報を取り扱い、解説していく情報紙です。
学生スタッフが企画・取材をすることで、学生目線から見た鳥大の姿をお届けしたいと思います。

※撮影時のみマスクを外しています。

独占取材! コロナ禍の大学祭

今年の風紋祭・錦祭はオンライン開催で行われました。昨年度は、両大学祭ともに新型コロナウイルス感染症の影響で中止となり、2年ぶりに開催された大学祭を待ち望んでいた学生も多いのではないでしょうか？今回は、両キャンパスの大学祭実行委員長にコロナ禍の大学祭についてインタビューしました！見逃してしまった人は今すぐYouTubeをチェック!!

注釈）風紋祭は鳥取キャンパス、錦祭は米子キャンパスの大学祭です。

第57回 風紋祭

実行委員会
実行委員長
安楽 健太さん
農学部 生命環境農学科
国際乾燥地農学コース 3年

実行委員会
ステージ部署
口田 智大さん
地域学部 地域学科
国際地域文化コース 3年

Q オンライン学祭に切り替わった時の心境

口田：準備してきたものがそのまま使えないということは苦しいと思いました。しかし、それよりもオンラインに変更になった時の自分が担当するステージをどのように進めていけば良いだろうかと考え始めました。とりあえず、開催を中止にするという考えはあまり無かったです。オンラインであれば、どのような形が一番良いのかと考えていました。

Q オンラインになったことで気を付けたことや工夫

口田：基本的なことですが、コロナ対策として3密を避けることを徹底して、感染者が出ないようにしました。また、出演者の名簿を作って仮に感染者が出た場合、誰が濃厚接触者にあたるのかといったことが分かるようにしました。

Q オンラインだからできたこと・よかったこと

安楽：遠方の地域に住む親御さん達から、我が子がステージに立っている姿を見ることができたという意見をいただきました。

Fumonsai

風紋祭実行委員YouTubeチャンネルの公開

今回紹介したオンライン開催された第57回鳥取大学風紋祭のアーカイブは、こちらのQRコードから視聴できます。
アーカイブの他、出演者インタビューなどの動画も公開されているのでぜひご覧ください。

第53回 錦祭

実行委員会
SNS係
梁 郁弥さん
医学部 医学科 3年

実行委員会　実行委員長
井之上 あかりさん
医学部 医学科 3年

Q オンライン学祭に切り替わった時の心境

井之上：もともと実行委員の活動のテーマが、コロナ禍にあっても、鳥大を中心に地域の雰囲気を盛り上げていこうということで頑張っていました。そのため、完全にオンライン学祭にすると決定した時には、地域の方が錦祭の熱のある場所に参加できないことになり、この先どうなってしまうのだろうという不安な気持ちで一杯でした。しかし、錦祭の新しい可能性を見出すためにも前例のないことに挑戦してみようという気持ちに切り替え、活動しました。

Q オンラインだからできたこと・よかったこと

井之上：今までの錦祭だと、自分の所属する団体の活動があったり、同時にステージが行われたりするため、全ての団体の発表を観るというのは難しかったのですが、オンライン学祭では、ステージ発表をしている団体を全て観ることができます。さらに、かっこいい撮影と音響で観ることができるのは今年の強みだと思います！

梁：今回の錦祭はオンラインでの開催だったので、記録として残ります。後輩にも『2021年度は、こんな風に開催したんだ！』ということがわかることもオンライン学祭のいいところだと思います。

Q これからの錦祭に向けた想い

井之上：私たちはCOVID-19流行前の錦祭を経験した最後の学年なので、実行委員長になって初めのうちは、伝統を引き継いでいくために今までの形の錦祭を開催しなくてはいけないと思っていました。しかし、別にそうある必要はなくて、後輩の皆さんも、その年の時世を活かした自由な形の錦祭を開催していってほしいと思います。

Nishikisai

第53回錦祭公式ホームページにて公開

今回紹介したオンライン開催された第53回鳥取大学錦祭のアーカイブは、こちらのQRコードから視聴できます。
各サークルのライブ映像の他、各局の企画も公開されているのでぜひご覧ください。

感想

コロナ禍で学校行事が中止を余儀なくされることが多い中、オンラインを活用した初の試みの舞台裏を知ることができ興味深かったです。来年度以降の大学祭が、より一層楽しみになりました。
（取材スタッフ　小野）

感染状況の変化に臨機応変に対応しなくてはならない中、大学祭の運営は例年とは違う大変なことも多かったと思いますが、そのような中でもオンライン学祭の可能性を感じることができました。
（取材スタッフ　足立）

オンライン学祭の舞台裏を聞き、時代に合わせた取り組みが印象的でした。オンラインだからこその強みやできることを生かしていて、話しを聞いていて面白かったです。
（取材スタッフ　河合）

取材を通して、学祭がオンライン開催になっても変わらない実行委員会の皆さんの熱意を感じました。またオンラインならではの工夫も知ることができて興味深かったです。
（取材スタッフ　榮）

鳥大見聞録 三浦・大熊段古墳編

鳥取大学鳥取キャンパスが位置する丘陵上には、おもに古墳時代後期（６世紀）に築造された古墳群が存在していました。少なくとも30基程度の古墳が築造されていたと推測されていますが、現存するのは共通教育棟の東側にある大熊（隈）段一号墳・二号墳（市史跡）、三浦一号墳の３基だけです。今回は、現存する三浦古墳、大熊段一・二号墳について取材しました。

〈参考文献〉『三浦遺跡 鳥取大学構内における考古学遺跡の調査Ⅱ』

豆知識　湖山池周辺には、古代の遺跡が多く存在し、古代より人々の生活の場であったことがうかがわれます。

三浦一号墳（別称・琵琶隈一号墳）

三浦一号墳は、古くから前方後円墳形の古墳として認識されていた。現存全長約36メートルを測る前方後円墳である。後円部は直径約20メートル、高さ約４メートル。前方部は現状で長さ約16メートル、前端部の幅が約23メートルであるが、高さは２メートルほどである。墳丘やその周辺から円筒埴輪片・鶏形埴輪片などが採集されている。

一号墳の西方約100メートルの位置に直径約12メートルの円墳である二号墳が存在した。削平※1により周溝※2しか残存していなかったが、溝から６世紀後半の須恵器などが出土している。

古墳時代後期、鳥取平野周辺では大きな前方後円墳が湖山池東岸地域に集中する。このことは、湖山池周辺地域の有力者が政治的に台頭してきたことを物語る。三浦一号墳はそのような地域史を解き明かす手がかりとして重要な遺跡である。

※1削平（さくへい）…切り崩すこと　※2周溝（しゅうこう）…古墳の外側をめぐる溝

鳥取市指定史跡 大熊段一・二号墳

湖山池周辺の丘陵や台地上には、前方後円墳20基を含む400基余りの古墳が築造されており、鳥取平野南部につぐ大古墳群を形成している。

大熊段一号墳は、約300メートル西方にある三浦古墳とともに湖山池北岸の代表的な前方後円墳である。丘陵の高所を利用して築造された一号墳は、全長50.5メートルを測り、前方後円墳の形状を現在まで良く遺している。後円部は直径30.5メートル、高さ3メートルを測り、幅22メートル、高さ3メートルの前方部は北西に向けて大きく開く。かつて、鉄鏃※1、鉋※2が出土したと伝えられ、墳丘からは円筒埴輪の破片が収集されている。

大熊段二号墳は、一号墳の前方に築造され、直径28メートル、高さ４メートルを測り、当地域では大型古墳に属する。円筒埴輪の出土が知られている。一号墳の中心線にあわせて築造されており、相互の密接な関係がうかがえる。

※1鉄鏃（てつぞく）…鉄製のやじり　※2鉋（やりがんな）…板を平滑にする鉄製の木工具

感想

鳥取大学の古墳は学術的研究があまり行われていないそうなので、古墳に興味のある方に是非とも研究していただきたいです。まだ行かれたことのない方は空きコマなどを利用して見に行ってみてください。（取材スタッフ　伊丹）

鳥取大学に古墳があるという事すら知らなかったので、取材を通して古墳について知ることができて良かったです。この記事を読んで、少しでも古墳について興味を持っていただけたら嬉しいです。
（取材スタッフ　宮下）

鳥取大学には古墳があるのは知っていましたが、古墳の詳細な情報は知りませんでした。今回の取材を通して詳しく知ることができました。皆さんもぜひ見に行ってみてください。
（取材スタッフ　西村）

学生広報スタッフ募集中！！

WEBサイト　Twitter　Instagram

取材にご協力いただきましたみなさま、ありがとうございました。

ご意見・ご感想はこちらまで→ ✉ gakusei_kouhoustaff@yahoo.co.jp
編集発行：鳥取大学広報企画室学生広報スタッフ／2022年２月発行

●所属・学年は取材時のものです。

わたしのトリくず ぴいす工房編

みなさんは鳥取大学に「ぴいす工房」という学生団体があることをご存知でしょうか？
ぴいす工房とはICEEという工学部系の学生プロジェクトの支援を受け、特別な機械などは使わず、身近なものでのものづくりの楽しさを伝えるために活動されている団体です。今回のトリせつでは、そんな「ぴいす工房」の活動について、取材してきました！

ぴいす工房の基本情報

●部員数…計14人

大学院生…1人
4年生…1人、3年生…2人
2年生以下…10人

そもそも「ぴいす工房」って？

鳥取大学生だった川﨑美優（かわさきみゆ）さん（2020年度卒業）が2019年の夏に立ち上げた学生団体。何か新しいことを始めたいと考えていたところ、地域学部の専門科目「ものづくり学習指導論」を通してものづくり教育に興味を持ち、長期的に活動を続けたいと思い、ぴいす工房を設立。

「ぴいす工房」の名前の由来

1 「peace sign」のpeace
部員も子どもたちも思わずピースしてしまうほど、楽しい活動をしたいという思い。

2 「peace」：平和
ものづくりを通して、子どもたちがほっとするような時間を提供したいという思い。

3 「piece」：かけら
パズルのピースをイメージ。みんなで力を合わせて活動を作り上げようという思い。

このような思いを込めて、子どもたちに親しんでもらえるように、「ぴいす」という平仮名の表記になっています。

昨年行われたハロウィンイベントの様子

今まで作られてきた作品

ぴいす工房の活動について更にお話を伺うべく、所属している学生に取材を行いました！

部長
権代（ごんだい） 彩花（あやか）さん
地域学部 地域学科
国際地域文化コース２年

副部長
森井（もりい） 愛美（まなみ）さん
農学部
生命環境農学科 ２年

Q 活動の詳細について教えてください！

権代：普段はイベントに向けた教材開発をしています。公民館の方からの依頼で地域のイベントに参加したり、ものづくりイベントの1ブースを担当したりしています。この前のハロウィンイベントはICEEのセンター長、影山先生に手伝ってもらいながら「ぴいす工房」のメンバーで準備から企画、告知まで行ったイベントです！

Q どのようにしてイベントを企画、実施するんですか？

権代：まずは企画書を作成して、影山先生と細かい部分を詰めていきます。ものづくりの教材に関しては、メンバーでイチからアイデアを出して、小さい子どもでも作れるように工夫しています。

森井：感染症対策も必要なので、それに関して大学に提出する資料を作ったりもします。告知のためのチラシやSNSの投稿など、何度も修正を繰り返してより良いイベントになるようにします。

Q この活動に興味をもったきっかけは？

権代：元々、森井さんに誘われてこのサークルに興味を持ちました。最初はわいわいと教材づくりに勤しんでおられる和やかな雰囲気が、私が高校時代から憧れていた大学生活そのものだったので、入部を検討していました。ただ何度か訪問させて頂く中で川﨑先輩の人柄やサークルへの向き合い方に惚れ込み、このカッコいい先輩とお近づきになりたいという思いから入部を決心しました。今でも川﨑先輩とは密に連絡を取り合い、日々アドバイスを頂きながら、部長として精進しています。

森井：自分が子どもの頃に工作や料理のイベントに参加した時にすごく楽しくて、似たようなことに今度は提供する側で参加できるところに魅力を感じたからです。

Q 活動で大変なことはありますか？

権代：当たり前のことですが、イベントは思いついてすぐできるというものではなくていろいろな人の協力があって初めて開催することができます。その点が大変だと感じます。最近では、コロナ禍ということもあってなかなか話し合いもスムーズにいかなくて大変でしたね。

森井：イベント中に、子どもたちにどうやったら工作を楽しんでもらえるか考えることが大変ですね。器用な子はどんどん先に進んでしまうし、苦手な子は集中力が切れてしまうし…。教材作成段階で、どうしたら工作をより楽しんでもらえるか試行錯誤しています。

Q どんな時にやりがいを感じますか？

権代：やはりイベントを無事に終えられたときですね。ハロウィンのイベントもいろいろうまく行かなくて、結構難航しちゃって…笑。でも、イベントの開催までこぎつけて、参加してくれた子どもたちに「すごく楽しかった」とか、「次回があればまた来たいです」とか言われた時にすごくやってよかったなと思うことができました。

森井：私もイベントを楽しんでくれている子どもたちの姿を見て、この活動をやっていてよかったと思いますね。最初は緊張しているのか、そっけない態度の子が多いのですが、工作を通して打ち解けて、最後に「バイバイ」って言ってくれるとより嬉しさがこみ上げてきます。

Q 今後のイベントはどのようなものを企画していますか？

権代：3月に「木育絵本作り」というものづくり道場主催のイベントがあってそこのものづくりベースに、教材を提供する予定です。また5月にはこどもの日にちなんだ「鳥取こどもまつり」が開催される予定で、そこに作品を出展する予定です。昨年開催された際には、ダンボールカーと写真立てを出展させていただきました。この他にもいろいろな活動を行っていく予定なので、ぜひ多くの方に参加してほしいです。一緒にものづくりを楽しみましょう！

感想

イベントの準備において、困難に直面しても解決への努力をしていたことがよく伝わってきました。この姿勢を見習い、将来に活かしていきたいです。
（取材スタッフ　藤原）

和気あいあいと、とても楽しそうな雰囲気で活動されていました。これからのご活躍を期待しています！
（取材スタッフ　岡村）

「ぴいす工房」の皆さんの活動について詳しく知ることができました。機会があればものづくりイベントに参加してみようと思います。
（取材スタッフ　田中）

今回、「ぴいす工房」の方に取材をさせていただいて、参加者の方が楽しめるように工夫をさせたと知ることができて良かったです。ものづくりに興味のある方はぜひ参加してみてください！
（取材スタッフ　唐潔）